

令和3年度 第1回 学校運営協議会議事録

校名	府立むらの高等支援学校
校長名	森本 裕

開催日時	令和3年7月12日（月）15:00～17:00
開催場所	府立むらの高等支援学校 共用棟2階 会議室
出席者（委員）	（会長）荒木 寛巳 （副会長）大森 千枝 （委員）石神 彰人 上国料 洋子 三瀬 吉彦 吉坂 久美子 ※順不同、敬称略
出席者（学校）	（校長）森本 裕 【事務局】（教頭）向山 和子 （事務長）清水 幸雄 宮渕 尚哉 吉田 聖名子 速水 彬裕 重松 亮 活田 侑 山口朋之 石森 由紀子 岩里 哲朗 藤川 泰生
傍聴者	希望者0名
協議資料	①令和2年度学校経営計画及び令和3年度学校経営計画、②令和3年度授業時間割・校時表・教育課程表、③進路指導の取組・進路状況、④令和3年度使用教科書採択一覧表及び令和4年度選定状況、⑤令和3年度「むらの Smile&Music プロジェクト」実施計画について、⑥授業参観アンケート集計結果紹介
備考	後日、議事録を学校ホームページで公開

議題等（次第順）
<ol style="list-style-type: none"> 1) 校長挨拶 2) 委員紹介、事務局紹介（資料②、③） 3) 学校運営協議会実施要項・運営計画について（資料④、⑤） 4) 報告 <ul style="list-style-type: none"> ・意見書の提出について ・令和2年度学校経営計画評価および令和3年度学校経営計画について（資料⑥） ・令和3年度授業時間割・教育課程について（資料⑦、資料⑧） ・進路指導の取組及び第4期卒業生の進路状況について（資料⑨） ・令和3年度採択教科書紹介および令和4年度採択教科書選定状況（資料⑩） ・令和3年度「むらの Smile&Music プロジェクト」実施計画について（資料⑪） ・授業参観アンケート集計結果紹介（資料⑫） 5) 協議 6) 校長挨拶 7) 諸連絡（事務局より）
協議内容（質問・意見の概要）
<p>【委員による意見交換】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会で生きるためには、自ら発信していく力が不可欠。社会の理解だけに頼ることは難しい。 ・離職は悪ではない。自分に合った職を探し働き続けることが大切。 ・報道番組のアビリンピック取材映像を観て、番組コメンテーターの「ちょっとしたミスを許せる社会への期待」という言葉が印象に残った。就労支援の現場で求めているのは正にそれだと思う。 ・生徒たちにとって仕事とは、「笑顔で生きるための糧」であってほしい。 ・コロナ禍において普及しつつあるリモートワークは、働く障がい者にとって大きな障壁ともなる。PCやタブレットの小さな画面からは、言葉だけではなく顔色や素振りなどで発信される多様な情報を的確に捉え対処することは難しい。 ・生徒たちはタブレットやPCなどに触れる機会が多い反面、トラブルに巻き込まれる危険性も高い。情報端末機器の学校現場での活用とともに、安全面を含めた学習の充実に期待している。 ・地域の学校で体育の授業におけるタブレットの効果的な活用例を見学させていただいた。むらのにおいても期待する。 ・以前に企画された朝市での農作物の販売は諸般の事情で実現しなかったが、今後も実現に向けての可能性を探っていきたい。障がいのある生徒たちが一般の人たちに交じって販売することに意義を感じている。 ・近隣の農地（委員の管理地）を開放しての田植えや稲刈り体験なども、条件が合えば可能なので検討されてはどうか。 ・わが子が本校の2学年に在学している。先日職場実習を終えて、疲れながらも充実していた様子が窺えた。今後も実習を積み重ねる中で、自分自身に合った職場を見つけてほしいと願っている。コロナ

禍で就労に向けての条件は厳しいと感じるが、家庭でもしっかりサポートしていきたい。

【事務局に対する意見・質問および回答】

- ・ 教員に対する ICT 関連の研修について
 - Zoom などを活用したオンライン授業を昨年度より試行実施している。今年度は夏季休業中に外部講師を招いて、目的に応じたハード・ソフトの活用について研修に取り組む予定。
 - ICT 関連の機器は徐々に充実。生徒へのタブレット端末の配付は8月中に1年生が完了予定。
 - 今後、突然の休校などに備えて、オンラインによる学習支援の体制を整えている。
 - ・ 情報機器の取り扱いに関する学習はどの部署で担当しているのか？
 - 主に生徒支援部にて。本日も SNS 講習を実施済み。情報モラルの指導については具体的な学習を積み重ねてきているが、理解が追い付いていないのが現状。トラブルの未然防止は引き続きの課題。今後も「人を大切に」の精神を伝え続けつつ理解を促していきたい。
 - ・ タブレットなど情報機器の活用が広がり、人と人の直接的なつながりが希薄になる中で、障がいのある人たちの対人関係を築く力が低下することを危惧する。また、情報端末機器から得る情報が正しいか否かを判断する力が新たに必要になるなど対応の難しさを感じる。
 - ・ 新型コロナウイルスの影響による就職難の時代における障がい者雇用について、進路指導担当の立場から感じることは？
 - 実習の事前学習においてタブレット端末を活用することにより、通勤経路などの調べ学習に対する意欲が向上したとを感じる。
 - 人間関係に係る影響については未知数であるが、社会人としてのマナーや新しい環境における様々な対応等について十分に身につけていない状態で就労したことにより、いまだ職場適応に苦慮している者もいる。
 - 就職先の業種に目を向けると、飲食業での採用が減った半面、清掃業は増えている。ただし、テレワークが浸透したことで社屋等での清掃の需要は減っている。
 - ・ コロナ禍において 31 名就労の実績は素晴らしいと感じる。
 - 卸売業、サービス業の関係はコロナの影響を受けにくかったことも幸いした。
 - ・ 障がい者に対する職場内のバックアップ体制が人事異動で途切れることはよくある。その事実について障がい者自身に理解させ備えさせていくことが大切。学校教育の中で備えはあるか。
 - 生徒は「キャリアデザイン」の授業などでその点について学ぶ。また3年になって就職が近づくと「就・」との連携を進めていく。保護者に対する具体的な働きかけは今のところ無い。
 - ・ 保護者の立場より
 - わが子の職場実習において、厳しい指導の裏にある担当者の真意を測りかね「叱られた」との思いだけを残してしまうことがあった。家庭でのフォローとともに、学校の学習によるバックアップにも期待したい。
 - ・ 生徒たちからの SOS を事前に察知するための工夫などはあるか？
 - これまでに就職した卒業生の中から数件の相談を受けている。進路アフターフォローの取り組みを通して課題の解決を試みている。
 - ・ 自分の身に起こった問題は家族には話しにくいもの。周囲が異変に気付くころには重症化していることが多い。
 - ・ 本人の変化に一番気付きやすいのは会社の担当者。課題の早期発見早期対応の実現に向けて、担当者と保護者とが適宜連絡を取り合えるような円滑な関係性を構築することの重要性を強く感じる。
- #### 【地域との交流、連携に関して】
- ・ これまでに小学校と連携して田植え実習に取り組んだ例がある。天候などに都合もあるが、事前に日程調整できれば実現可能。
 - ・ 情報機器の活用も大切だが、体験学習の重要性をより感じる。大学生の中にもスコップで穴を掘ることができない者がいる。頭でイメージできても、やってみなければ身に付かないもの。また、コロナ禍で天の川カフェの通常営業ができない現状において、このような取り組みを通して学校外とのつながりを持つていくことに意義を感じる。
 - ・ むらので農園を初体験し、わが子の新たな可能性を感じた。現在は市街地に在住のため田んぼを知らない。可能ならば田植えや稲刈りもぜひ体験させてやりたいと感じる。
 - ・ 新校長のもと、むらの高等支援学校の教育の更なる発展に期待したい。